

2022年11月6日(日) 講演会資料①

主催:(一般社団法人)障がい児成長支援協会

共催:(株)ライフライク ※障がい児成長支援協会諏訪地区支部長

～不登校でも支援級でも大丈夫～

特別支援が必要な生徒の高校進学の話

○入学するためにどんな力が必要か

○高校卒業後はどんな進路や就労があるか

○通常の高校と特別な高校と何が違うのか

(入試・単位・授業など)

(一般社団法人)障がい児成長支援協会 協会長

中部学院大学 山内康彦(学校心理士・ガイダンスカウンセラー)

知っていますか？ 中3後の進路について
中卒で働く子は数百人に1人？
自営でなければ、正社員はまず無理

「フリーターで生きる」と言った友だちの末路

若いときには、アルバイトがある。
時給900円で1日7千円程度
1か月10万円程度？

○住居代

○車代

○食費

○ゲーム購入費

生きていくことがやっとな！！病気の時、老後は？



何が自分のお子さんにとって幸せか？

18歳の出口から今やるべき教育を考える

- 1 障害者手帳を使って障害者として生きていく
→ 支援学校高等部へ進学する
- 2 高卒資格を取得し、健常者として生きていく
→ 高等学校へ進学する
- 3 「1」と「2」の合わせ技で生きていく
→ 障害者手帳をもって高等学校へ進学する

※高卒資格をとっても紙切れだけでは意味なし！

※支援学校卒業でも幸せに生きている人は多い！

(進路①) 支援学校高等部に入学

- 障害者手帳を使って障害者枠で就労
- 原則「中卒と同じ」
- 就労率は3人に1人
- 就労の多くは、作業所



(進路②) 高校に入学

- 高卒で支援学校の過去が消える？
- 高卒と手帳で公務員受験もあり！
- 特別支援学級から進学できる高校有

特別支援学校高等部は、 原則高等学校卒業資格がない！！

支援学校は、「自立して生きていくための**自立訓練**や**就労訓練**」が教育の主体である。

だから・・・数Ⅰ・古文・漢文、英語がない等、
高卒資格に必要な単位がない。

文科省は「**高卒と同等な卒業証書**」というが、
大学受験ができない、高卒以上の就労できない

※一部「肢体」や「病弱」などは高卒資格がある

特別支援学校高等部には2種類ある？

1 「通常の特別支援学校高等部」

○作業訓練→障害者就労

□「通常級（肢体・病弱）」→大学受験可
※入学試験有り（通常の学力必要）

2 「高等特別支援学校」 ※水戸特別支援学校

愛知では「豊田特支」「大府もちの木特支」等

大阪では「すながわ特支」等

ほぼ全員が卒業後一般就労へ！！

※入試有（学力《小4～5程度》・面接

・作業◎全寮制 or 自立通学が原則）

高等学校にも様々な種類がある？

1 「通常の高等学校」（公立・市立）

5教科500点の学力＋内申書《通知表1～5》

※原則通常学級でないと難しい！！

内申書の点数は、中2から？ 中1から？

※支援級でも内申書がでる場合有 （※要確認）

2 「特別な高等学校」

○障がい児を受け入れる高校（茨城にはない？）

○専修学校（専門学校＋通信制高校）

○通信制高校（サポート校）

専修学校の注意点(大丈夫ですか?)

1 「専修学校」(専門学校+通信制高)

△学習内容は、通信の74単位+専門学校

△基本は生徒40人に1人の先生、支援は少ない

◎子どもの興味関心と学校の内容が合えばよい

△「行くところが他にないから」と安易に選ぶと

毎日、一日中嫌な学習を続けることになる

○体育祭や修学旅行などの学校行事が豊富

2 「通信制高校のみ」

○学習内容が少ない74単位

○小集団や少人数の支援が中心

○欠席や遅刻も柔軟



通常の高校と通信制の高校の違い①

①入試の違い

(通常の高校) 5教科500点+内申書

(通信制高校) 面接のみ (学力テストある所も)

②入学後の学習内容の違い

(通常の高校) 4分の3出席 全教科赤点なし
100~110単位で卒業

単元・期末テスト中心に評価

(通信制高校) 74単位 (30%近く少ない)

テストよりレポート等で評価

③卒業の後の進路

どちらも普通の“高卒”として次の進路へ

通常の高校と通信制の高校の違い②

④学習環境の違い

- (小集団型の通信) 一般的な通信制高校
- (個別中心の通信) 一対一の支援も可能！
※別料金になる学校も有

⑤授業料の違い

- (本校と言われる本部へ) 30万円～40万円
※国から助成金等あり、約半額になるケース多
- (サポート校への授業料) 60万円～80万円
※各学校で奨学金や安くなるプラン有
※通信制高校にはオンライン型から登校型まで
様々なあり、授業料設定もいろいろある。

①公立高校 特別支援対応校

(定時制・単位制・インクルーシブ枠・通級)

- 定時制高校・・・◎安い ○4年制も有
(今は、“夜間”とは限らない)
- 単位制高校・・・◎安い ◎登校が少
(学校によって様々な仕組み)
- 通信制高校 (長野西高校・松本筑摩高校)
- インクルーシブ枠
(通常の高校に特別枠が数名ある)
- 通級・・・小中と同様の制度が高にも
(まだまだ見切り発車のところがある)

②私立高校 特別支援対応校 (実質少人数で丁寧な支援・指導)

- 支援学級や内申点がなくても受け入れOK
- 卒業後の推薦枠を多く持っている
- ※高校から中学校に事前の説明に来ている
- ※中学の先生に問い合わせれば教えてもらえる
(例：信州むつみ高校・飯田女子高校・つくば開成学園高校)

本当の定員は1クラス40名であるが・・・実際は
20名程度で手厚い支援が受けられる学校も・・・

③通信制高校

(たくさんの支援が必要な生徒も受け入れ可)

○出席日数に対して理解がある

○74単位で高卒という、少ない学習内容

○少人数・個別中心の指導

※「スクーリング」には参加する必要あり

▲学費が通常の高校の二倍近く必要になる

・通信制高校行ってもいろいろなタイプがある

《通信制高校といってもいろいろ》

※長野県内の通信制を調べてみました

◎明蓬館 S N E C 高等学校

来年4月開校

◎中央国際高等学校（信州中央高等学院）

◎鹿島学園高校

◎あずさ第一高校

◎クラーク記念国際高校

※まだまだたくさんあります

特別な高校の例「通信制サポート高校」

内閣府特区高等学校（広域通信制／3年生／男女共学）

『明蓬館SNEC高等学校』とは

□基礎的な学力があれば・・・（支援級OK）

□最低限の社会性があれば・・・（不登校OK）

①興味ある学びを活かす マイプロ

②少人数・個別指導中心

③小中の学び直しも高卒授業の単位

④福祉（放課後等デイサービス）との連携で塾などの追加学習必要なし

入学できることより「卒業できる」学校か？ 『卒業後の進路は大丈夫か？』を考える

《進路選びのポイント》

- ①入学試験は何か（学力試験の有無・面接）
- ②進級・卒業の条件
（期末試験の有無・卒業単位数74～110）
- ③先生の専門性（どんな先生がいるのか）
- ④出席日数が一定量必要な学校なのか
- ⑤少人数・個別対応をしてくれる学校か？
- ⑥卒業後の進路や就労の面倒を見てくれるか
- ⑦卒業までの学費はどれぐらい必要か？

特別な高校といっても中身は違う！

(例)ラーメンといってもいろいろあります

・醤油・味噌・塩・まぜそば・つけ麺・博多とんこつ・ジャージャー麺

※麺もスープも具も食べ方もまったく違うが、同じラーメン！

どこを見ればよいのか？

○「人」「もの」「こと」の三観点が重要

○卒業後の見通しも大切

「高卒」の紙切れだけで

は意味がない

(例：公認心理師はいるか？)



1、「人」について

◎まずは、「子どもたちを受け入れる」という姿勢がしっかりある高校かどうか？

その上で…

「どのような資格をもって
いる職員がいるのか？」

「どのような経験をもって
いる職員がいるかどうか？」



ただのパートや学生バイトになっていないか？

※通信制サポート校のサポート校の教員には、
教員免許の資格の必要性がないことに注意！

※通信高校といえど、文科省が定めた高校の
教科書を使って学習をします。指導力は重要！

2、「もの」について

◎学習環境が整っているか



☆個別の学習環境やパソコン等の機材

3、「こと」について

◎どのような内容で学習を進めるのか

○通信の授業をどのように受講するのか

○評価がどうなっているか

・期末テストタイプ？ ・その場タイプ？

・紙のテストに書く？ ・パソコンで解答？

○アルバイトも単位になる？

○スクーリングは必修内容

どこでどのようなスクーリングをするのか

保護者同伴も可能？

通信制高校もいろいろ(その例を紹介)

《通信制高校 A》

- 入学時は、国・数・英3教科の学力試験
合否のラインは『中1程度の学力』
- 入学後は、期末テストで評価→再テスト有
- ※ほぼ通常の高校の教科書を使った学習で単位取得
- 個別指導は別料金(月に+3万円)

《通信制高校 B》

- 入学試験は『面接』のみ
- 大きな定期テスト少→学習後の簡単な確認テストと感想
- ※小・中学校の学び直しも高校の単位になる
- 個別指導も通常のサポート料金に含まれる
- 心理師(士)在駐、専門職員が心のサポートも行う

高卒は、とったものの…どうしたら…①

「大学進学」「専門学校進学」「就労」

- “高卒” と “障害者手帳” の合わせ技で就労の幅が広がる （※公務員受験も可能となること多）

通信制高校からの進学をめざすなら

通常の高校に比べて評定が高くなる

（例）評定3以上で大学へ推薦入学！

※早めに卒業後の目標を決めて学習を進めていくことが重要です。

高卒は、とったものの…どうしたら…②

「就労移行支援事業」という選択枠

○2年間の就労訓練

※その子の特性を活かした訓練を実施

◎ほとんどお金は必要ない。

◎就労の斡旋がプロ（先生はプロではない）

※「就労移行支援事業所」といってもいろいろ

（例）知的障害を対象にした事業所

（例）精神障害を対象にした事業所

（例）農業に特化した事業所

高卒は、とったものの…どうしたら…③

「就労定着支援事業」という新しい事業

○就労場所に「ジョブコーチ」がつきます

※本人に対しての就労支援

※周りの職場の人に対する支援

△いきなり知らない人が「ジョブコーチ」として来ても、本人との信頼関係が築けない。

(山内の理想)

◎放課後等デイサービスの指導員がジョブコーチ

→長年付き合った大好きな指導員が支援する

必ず体験してから決定すること

1 まずは、『パンフレット』を入手する

○小学生でも大丈夫！ 強く希望してゲット

2 保護者だけで『見学』

○10年以上育ててきた親が見学すれば分かる

3 子どもを連れて『体験』

※学校から『○○がいいよ』とは言ってこない。

保護者が見つけて考えることが原則の時代！

◎事後でよいので、学校には報告してください。

山内の調査から…つけた力は社会性

「定形発達」の子どもは学歴で給料が決まる

「特別支援が必要な子」は、学歴よりも『社会性（適応能力）の高さ』で給料が決まる

『S-M社会生活能力検査』を使った場合
129項目達成すると中学生の社会性有

7歳の壁・・・就労できるかどうか

12歳の壁・・・10万円程度の給料

中学生の壁・・・一般就労ができる

※ぜひ、検査をうけてください。

まずは、何を身につけることが重要なのか
※0歳～15歳までに身につけたい社会性
～S-M社会生活能力検査から～

- 1 身辺自立
- 2 移動
- 3 作業
- 4 意志交換
- 5 集団参加
- 6 自己統制



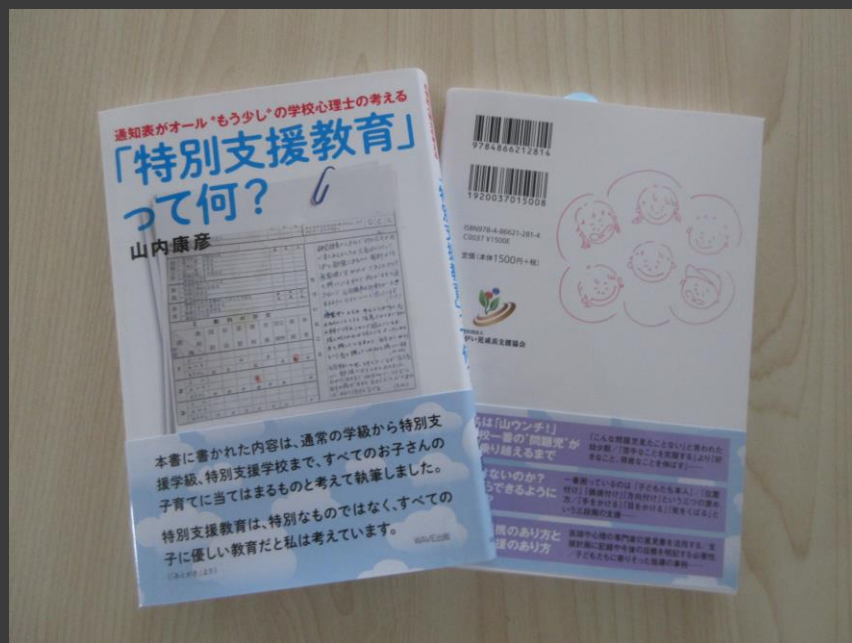
《結論》

- 1 定形発達の生徒に比べて早く準備が必要
- 2 具体的な目標を決めたら、入学条件を調査
- 3 保護者自らが積極的に動いて見学・体験
- 4 学校や放課後等デイサービス、塾、家庭教師等と連携を図って力を付ける
- 5 専門性のある人とつながりを持ち、継続的な相談をする（学校の先生は替わってしまう）

見学・体験入学
随時受付中です



困り感を共感的に受け止め、早期から適切な支援を継続的に行うことが大切です



**特別な支援は、もはや特別なものではありません
全ての子どもたちにとってやさしい支援なのです**

ご清聴ありがとうございました。

山内先生の無料個別相談会追加

令和5年1月5日（木）限定10名
10時00分～19時00分まで

特別支援に関わる様々なお話しを気軽に聴けます。



ぜひお申し込みください。

電話・Mail等で申し込み
ください。